



de Leeuw E. The planet in our backyard: public health should step up. JGPOH 2025, posted: 06.05.2025. DOI: 10.61034/JGPOH-2025-08

「ディベート

私たちの裏庭の惑星：公衆衛生は強化されるべきである。

イヴリン・デ・リーウ¹

¹ École de Santé Publique de l'Université de Montréal, モントリオール, カナダ.

推奨引用:

Evelyn de Leeuw のコメント: 私たちの裏庭の惑星: 公衆衛生は強化すべきです。

JGPOH 2025です。土井: 10.61034/JGPOH-2025-08、ウェブサイト:

<https://jgpoh.com/archives/29247>

対応する著者: エヴリン・ド・リユーウ

プロフェッショナル・ティトウレール

Chaire d'excellence en recherche du Canada, Une Seule Santé Urbaine, カナダ

エコール・ド・サンテ・プブリック・ド・モントリオール大学

IUHPE 科学担当副社長



「エディトリアル」

トランプ I 政権下では、米国は COVID-19 のパンデミック(1,2)による死亡者 130 万人以上を超過した。その結果、この国はすべての年齢層で平均寿命の低下に直面しています。歴史上、人間の健康が一国で総体的に低下するのは初めてです。米国では、100 万人以上の人々とその家族が政治的に決定されている避けられない悲劇に見舞われています(3)。しかし、アメリカ国民は、この大惨事の犯人をトランプ 2 世政府に選んだ。民主的なチェックとバランスから逃れる大統領令の雪崩の中で、この大統領は制度とメカニズムを停止し、中止することを選択した。これらの行動は、回避可能な死と破壊の新たな洪水を、世界中で、そして最終的に米国自体にもたらした。PEPFAR の資金凍結は、世界で最も脆弱な人々の一部で少なくとも 150,000 人の回避可能な死亡者につながるでしょう(4)。環境、気候、水と土壌の質と生態系の保護のための公的部門の支援を撤回するキャンセルと政策の混乱の波(5)は、ほとんど邪悪な性質です。トランプ-I が彼の最初の任期で気候変動協定から脱退したとき、低レベルの米国政府（州、郡、自治体レベルで）は、独自の気候レジリエンスプログラムを開発し、実施するために急速にステップアップしました。トランプ-II はこの「セットバック」から学び、（再び、大統領令によって）そのような当局が自らの行動に資金提供することを不可能にする政策介入の広範なパッケージを制定した(6)。アメリカを再び偉大にする (MAGA) は、ロバート・F・ケネディ Jr. の *Making America Healthy Again* (7) のような嘘であるだけでなく、これらの行動は世界的な生態学的健康を著しく損なう。

同時に、医学研究におけるジェンダーバイアスの意識が高まり、臨床的および公衆衛生上の行動のエビデンスベースが高まっています。オーストラリアの新聞は、便利に 'medical misogyny' とラベルされた現象を報告している(8)。医療産業複合体が人類全体、特に性別と性別の間の多様性を認識する能力がないこと。報告書によると、女性は、医師や製薬業界の無知、偏見、悪意、悪意に苦しんでいます。しかし、ここでは不条理なことが起こっています。これは新しい発見ではない。1960 年代と 1970 年代、解放運動は女性の健康運動を生み出し、女性の世代（当初は高所得国で、後に世界中のグループが加わった）は、ボストン女性健康書集団とその姉妹たちの著作に触発された(9)。集会の叫び「私の身体、私の選択」はもはやエキゾチックな要求ではなく、事実の正義の声明である。しかし、「医学的な女性」についての無知は蔓延しており、世界の一部の地域では、人々の（特に女性の）自己決定に対する古く不健康な態度が再浮上している。これは、アフガニスタンの明白なジェンダーわいせつ(10)から、家父長制的



価値体系によって抑圧され支配されることを主張する女性のグループの奇妙な出現、「貿易主婦」にまで及びます(11)。The Christian orthodox social and funding base of Trumpism(12) is facilitating such developments by, e.g., allow the toxic masculinity of the Tate brothers(13), and blatant violation of the human rights of gender dysphoric people in the United Kingdom(14). キリスト教正統派の社会的および資金基盤のトランプイズム(12)は、そのような発展を容易にしている、例えば、テイト兄弟の有毒な男らしさ(13)、および露骨な人権の侵害は、英国の性別異質の人々の人権侵害(14)。

公衆衛生運動はどこかで間違った方向を向いたに違いない。

(エコロジカル、人口、個人)の平等のためのアドボカシーとアクティビズムは、おそらく私たちの職業の遺伝子に埋め込まれています。だから-ウィンスローによる私たちのフィールドの古典的な定義への遵守(15)、“病気を予防し、寿命を延ばし、環境の衛生、伝染性の制御のための組織されたコミュニティの努力を通じて精神的および身体健康と効率を促進する科学と芸術、個人の衛生における個人の教育、病気の早期診断と予防治療のための医療と看護サービスの組織と社会機械の開発は、健康の維持に十分な生活水準を確保するために、すべての市民が健康と長寿の彼の生来の権利を実現できるようにするように、これらの利益を整理? 明らかに、我々は進化した。OECD 諸国には、白人のエリート主義的な公衆衛生学校はもはや存在しない。世界各地に何千もの公衆衛生トレーニングとアドボカシー機関があります。We write nice pieces about the necessity to decolonise(17), and to act more politically(18). 私たちは良い作品を書く必要性について decolonise (17)、およびより政治的に行動する(18)。私たちの専門団体はよく組織されており(19)、地球にまたがる技術によって可能になる会議や会議で定期的に重要な見解を共有しています。重要な公衆衛生介入(および公衆衛生機能)のエビデンスベースは豊富で反論の余地がない。

しかし、地球の運命にとって、私たちの行動は残忍なトランプ主義、戦争(中東、ウクライナ、コンゴ、スーダン、ミャンマー)と気候破壊に直面して抽象的で取るに足らないように見える。COVID-19 時代から浮上し、地球の生物圏、地質圏、大気、水圏(人類圏によって不可避免的に改変された)は、繊細で弾力性のある複雑な生態系であるという認識は、包摂的で惑星的な公衆衛生のための活動家のアジェンダとして広く再形成されるのではなく(20)、当然のこととみなされている。

なぜ、確立された健康学者は、人々の健康運動(21)のようなグループに、より具体的かつ過激な立場に立たないのですか? 市民社会グループ、影響を受けたコミュニテ



イ、スラムや急進的な変化を提唱する機関が、何千もの教育・研究施設に存在していると私が提案した公衆衛生の世界で支持され、インスパイアされた人々はどこにいるのか？なぜ世界中の個人や有権者は、(芸術やコミュニティの努力として)公衆衛生の重要な原則を別れ、分裂、憎悪、女性蔑視、人種差別、暴力を許容するように見えるのはなぜですか？なぜ私たち公衆衛生の専門家やリーダーは、その卑猥さに対抗するために、一つの声で声を出すことができないのですか？

ケネディ、JFKの言葉をチャネリングすることは有用です。(22)"我々は、この10年間で月に行き、他のことをすることを選ぶ、彼らが簡単であるからではなく、彼らが難しいので、その目標は、私たちのエネルギーとスキルの最善を整理し、測定するために役立つので、その挑戦は、私たちが受け入れることを喜んで1つであるので、我々は先延ばしたくないと1つ、そして我々が勝つつもりの1つ、そして他のものも。"何よりも、この引用が示すことは、私たちのビジネスは事実と証拠の1つであるべきではなく、ビジョンと理想の1つ、したがって政治：私たちの場合は、公平、連帯、回復力、持続可能性についてです。公衆衛生は、ヴィルチャウの時代（「医学は社会科学であり、政治は大規模な医療以外の何ものでもない」）以来、政治は政治である。

しかし、私たちはコミュニティとしてこの認識を有意義に受け入れていません(23)。我々はレトリックを放棄し、積極的に政治に従事する必要があります。「私たちのコミュニティや他者を組織化しなければならない」。私たちは、権利を剥奪された人々、疎外された人々、排除された人々との連帯を示し、行動し、例えば、人種、植民地主義、ジェンダーの違いの単純な疫学を超えて行動する必要があります。私たちは、目に見える形で、人々（そして生態系）と協力する必要があります。(24)脅かされる。私たちは、コミュニティ組織から市民科学まで、そして非常に大規模なデータセットから、不快な不平等からネットワーク能力まで、これを行うための知識とツールの武器を持っています。

私たちのコミュニティのための行動への呼びかけ（またはおそらく覚醒の呼びかけ）には、次の強調が含まれる可能性があります。

- 志を同じくする市民社会関係者や機関をネットワーク化し、より有意義につなぐ。これには、健康、生態学、都市計画、持続可能性、ウェルビーイングの分野が含まれますが、有意義であるためには、そのようなネットワークは主要な産業(25)と慈善事業も受け入れる必要があります。世界公衆衛生協会連盟



(WFPHA)、国際公衆衛生研究所協会(IANPHI)、公衆衛生教育認定庁(APHEA)を含む私たちの組織は、これらの（時にはありそうもない）友人や同盟国に手を差し伸べるための作業部会を設立すべきである。

- これらの友人や同盟国のいくつかは、紛争や政治的気まぐれから独立したグローバルな公共および生態学的健康能力を確認するために、より実現可能かつ具体的な用語で新しい資金提供メカニズムを検討するために、協議され、権限を与えられるべきです。これは、例えば、炭素排出取引の次元によって補償することができる小さな航空券連帯課税(26)である可能性があります。
- これらの行動コースのどちらも、より良いアドボカシーとコミュニケーション能力なしでは何も得られません。事実重要ですが、事実を取り巻く物語はさらに重要です。私たちは、友人や敵と共に、真のグローバルヘルスと生態系の連帯のために、どのような物語が動員し、行動を維持するのかを理解する必要があります。研究機関は、公平と連帯のための大規模言語モデル（人工知能）の訓練などを通じて、そのような能力を開発することを可能にするべきである。モントリオール宣言(27)は、偏見や虐待を避けるためのそのような能力の開発のための重要な指針であり続けるべきである(28)。
- これらの行動と優先事項は、透明性と説明責任をもって文書化され評価され、関連するジャーナルやニュースアウトレットに掲載され、包摂的な知識機関のネットワーク（例えば、「Slow Universities」(29)によって承認されるべきである。

米国のような国での政治的・健康的発展を、私たちの集団的運命、健康、幸福から切り離すことを許すことはできない。「グローバルに考え、現地で行動する」というスローガンは相変わらず有効であり、地球とその完全性が私たちの裏庭で始まることを意味します。

References

1. CDC National Center for Health Statistics. Excess Deaths Associated with COVID-19 Provisional Death Counts for COVID-19. 2025 https://www.cdc.gov/nchs/nvss/vsrr/covid19/excess_deaths.htm accessed 5 May 2025



2. Rossen, L.M., Nørgaard, S.K., Sutton, P.D., Krause, T.G., Ahmad, F.B., Vestergaard, L.S., Mølbak, K., Anderson, R.N. and Nielsen, J. Excess all-cause mortality in the USA and Europe during the COVID-19 pandemic, 2020 and 2021. Scientific reports, 2022, 12(1), p.18559.
3. Greer, S. L., King, E., Massard da Fonseca, E., & Peralta-Santos, A. Coronavirus politics: The comparative politics and policy of COVID-19. University of Michigan Press. 2021
4. Hontelez, J.A., Goymann, H., Berhane, Y., Bhattacharjee, P., Bor, J., Chabata, S.T., Cowan, F., Kimani, J., Knox, J., Lora, W.S. and Lungu, C., The impact of the PEPFAR funding freeze on HIV deaths and infections: a mathematical modelling study of seven countries in sub-Saharan Africa. eClinicalMedicine. DOI: [10.1016/j.eclinm.2025.103233](https://doi.org/10.1016/j.eclinm.2025.103233)
5. Milman, O. Trump has launched more attacks on the environment in 100 days than his entire first term. The Guardian. <https://www.theguardian.com/environment/2025/may/01/trump-air-climate-pollution-regulation-100-days> 2025 1 May 2025, accessed 2 May 2025
6. Noor, Dharna. Trump takes aim at city and state climate laws in executive order. The Guardian <https://www.theguardian.com/us-news/2025/apr/09/trump-climate-state-laws-executive-order>. 9 April 2025, accessed 2 May 2025
7. Gostin, L. O., Wetter, S. A., & Lurie, P. Can a new commission make America healthy again? JAMA Health Forum 2025 6, 3, pp. e251304-e251304). American Medical Association.
8. Iacobucci, G. " Medical misogyny" leaves many women in pain, MPs' inquiry finds. BMJ (Clinical research ed.), 2024 387, q2780.
9. Norsigian, J., Diskin, V., Doress-Worters, P., Pincus, J., Sanford, W., & Swenson, N. The Boston women's health book collective and our bodies, ourselves: A brief history and reflection. Journal-American Medical Womens Association, 1999 54, 35-36.
10. Najam, R., Patrinos, H. A., & Kattan, R. B. The Mis-Education of Women in Afghanistan. The World Bank Group Policy Research Working Paper. 2024
11. Sykes, S., & Hopner, V. Tradwives: Right-Wing Social Media Influencers. Journal of Contemporary Ethnography, 2024 08912416241246273.



de Leeuw E. The planet in our backyard: public health should step up. JGPOH 2025, posted: 06.05.2025. DOI: 10.61034/JGPOH-2025-08

12. Wijesooriya, S. Project 2025: The Security and Societal Consequences of Trump's Return to Power. Security Distillery. <https://thesecuritydistillery.org/all-articles/project-2025-the-security-and-societal-consequences-of-trumps-return-to-power> 2024 accessed 2 May 2025
13. Simmons, C. CTRL HATE DELETE: The New Anti-Feminist Backlash and How We Fight It. Policy Press, Bristol. 2025
14. Duffy, S. Moral panics and legal projects: echoes of Section 28 in United Kingdom transgender discourse and law reform. *Gender and Justice*, 2025 1(1), 78-99.
15. de Leeuw, E. Healthy cities deserve better. *The Lancet*, 2012 380(9850), 1306-1307.
16. Winslow, C. E.-A. The untilled fields of public health. *Science*, 1920 51(3106), 23–33
17. Tagoe, N., Abimbola, S., Bilardi, D., Kamuya, D., Gilson, L., Muraya, K., Molyneux, S. and Atuire, C., Creating different global health futures: mapping the health research ecosystem and taking decolonial action. *BMC Health Services Research*, 2025 25(1), p.565.
18. de Leeuw, E., Harris, P., Kim, J., & Yashadhana, A. A health political science for health promotion. *Global health promotion*, 2021 28(4), 17-25.
19. Myhre, S. L., French, S. D., & Bergh, A. National public health institutes: a scoping review. *Global Public Health*, 2022 17(6), 1055-1072.
20. Monti, M., Torbica, A., Mossialos, E., & McKee, M. A new strategy for health and sustainable development in the light of the COVID-19 pandemic. *The Lancet*, 2021 398(10305), 1029-1031.
21. London, L. The place of human rights and the people's health movement. In *Handbook on Religion and Health* (pp. 245-263). 2024 Edward Elgar Publishing.
22. <https://www.jfklibrary.org/learn/about-jfk/historic-speeches/address-at-rice-university-on-the-nations-space-effort> accessed 5 May 2025
23. Fafard, P., Cassola, A., & de Leeuw, E. Integrating science and politics for public health 2022 Springer Nature.



de Leeuw E. The planet in our backyard: public health should step up. JGPOH 2025, posted: 06.05.2025. DOI: 10.61034/JGPOH-2025-08

24. de Leeuw, E. Health beyond borders: the future of health promotion. *Scandinavian Journal of Public Health*, 2024 14034948241288272.
25. De Leeuw, E. Energy Is Power. *International Journal of Health Policy and Management*, 2024 13, 8716.
26. Song, J., & Pyun, L. Innovative development finance for health sector development: focusing on the air ticket solidarity levy system in the Republic of Korea. *Sustainability*, 2022 14(5), 2766.
27. Raso, J. Responsible AI: Binaries that Bind. *McGill Law Journal*, 2024 69(4).
28. Anibal, J. T., Huth, H. B., Gunkel, J., Gregurick, S. K., & Wood, B. J. Simulated misuse of large language models and clinical credit systems. *NPJ Digital Medicine*, 2024 7(1), 317.
29. Martell, L. The slow university: Inequality, power and alternatives. In *Forum Qualitative Sozialforschung/Forum: Qualitative Social Research* 2014 15 (3).

2025, de Leeuw E. This is an Open Access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License CC BY-NC-ND 4.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>)